

日がないこと、最寒月の平均気温が7°Cを下らぬことなどがわかっている(日浦勇、1973)。また千葉県房総南端での調査では、12月~3月までの平均最低気温が5.4°Cで越冬したことも報告され、発育ゼロ点ギリギリでも食物さえあれば冬を越すことができる(日浦勇、1973)。

因みに、本島南端の灘地区の冬期気温をみると、1977年12月~1978年3月までの最低平均気温は4.8°Cで、0°C以下となった日数は2日となっており、房総南端とあまり大差がないことがわかる。

一方食草については、1978年10月22日の調査でインゲンマメを広石で確認し、灘の海岸沿に自生するハマエンドウにも多数の卵を見ることができた。

本島でのマメ科食物の冬期栽培の主産地は、灘地域ではなく三原町などに多いようであるが、灘地域でも民家で栽培されているものがところどころで見られ、冬期でも花をつけている。

このような事実から、(登日邦明、1974)にも指摘があるように、島内でも冬期気温が温暖な、灘地域、沼島などでは、年によっては越冬が予想される。冬期に於ける同地域の調査を期待したい。

#### 参考文献

登日邦明(1974) 淡路島の蝶相(II) 名古屋昆虫同好会 佳香蝶 Vol. 26  
NO. 99 P 25~32

日浦 勇(1973) 海をわたる蝶 蒼樹書房(東京)

### PARNASSIUS No. 19

1978年11月15日印刷

1978年11月18日発行

編集者 登日邦明

発行所 淡路昆虫研究会

〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235 登日方  
振替 神戸49591

印刷所 れいめい社

〒656 洲本市本町5丁目1-24